

地球の課題に「人類の団結を」

国連広報センター所長

根本かおるさんに聞く

大阪・関西万博には、国際連合(国連)のパビリオンもあります。計35の国連機関が集結し、国連パビリオンを構成。世界を取り巻くさまざまな課題がある中、国や分野を超えた団結を呼びかけます。展示の内容について、国連広報センター(東京都)所長の根本かおるさん(61)に聞きました。(中尾浩之)

国連は、戦争もたらす惨禍から将来の世代を救うため、第2次世界大戦後の1945年10月につくられ、今年で創設80周年を迎えます。万博の国連パビリオンでも、節目の年を踏まえ「国連の過去、現在、未来を展示で表現している」と根本さんはいいます。

「過去」に関する展示は、国連が時代ごとにどのように歩んできたかを年表やデータを交えて紹介。「現在」にあたる展示は、「人々の今の暮らしに国連がどのように関わっているかを解説しています」。

「未来」についての展示は、達成期限が2030年に迫る「持続可能

な開発目標」(SDGs)を軸にしています。「SDGsを達成した先にどんな未来があるかを示し、取り組みの加速と拡大を呼びかけていく」と根本さんはいいます。

国連は、各国がともに行動する国際協力の分野で世界最大の組織として、193の加盟国とともに、多様な国際情勢と絶えず向き合っています。後を絶たない各地の紛争や地球規模で進む気候変動、人権侵害や格差の拡大、人工知能(AI)の登場による社会や産業の変化など、課題はさまざまです。

紛争地をVR体験

パビリオンでは、世界の課題にも立ち向かっていきたいという願いを込め、「United for a Better



国連パビリオンの外観(9日)

Future 人類は団結したとき最も強くなる」のメッセージを広く発信していく考えです。

平和への思いを広げていきたいと、パレスチナ自治区ガザやウクライナの紛争地を仮想現実(VR)で体験する試みも予定しています。

また、国連パビリオンには計35の国連機関が集結し、一つのパビリオンをつくりあげていることも注目です。たとえば、国連の主要機関の一つとされる国連事務局をはじめ、世界保健機関(WHO)や国連児童基金(ユニセフ)、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)などです。

万博期間中は、そうした国連機関の幹部と、専門家や著名人などのゲストをパビリオンに迎えます。国際的な課題と解決策についての知見や経験を発信するイベントも計画しているそうです。

根本さんは「それぞれの分野をリードする国連機関のリーダーたちが日本に来て、どのようなメッセージを発信するか。ぜひ、みなさんに注目してほしい」と話しています。



35機関が集結

国連パビリオンの展示で映し出される世界の様子(9日、大阪市の夢洲)

万博で各国の「好き」を見つけて

—根本かおるさん

1970年の大阪万博で、当時小学1年生だった私は世界の人々や料理、技術を見て大興奮しました。世界に目を向ける喜びに気づかされ、計7回も連れてってもらいました。

万博は、各国が誇る最先端技術や最高の芸術に触れられる絶好の機会。そして、平和の象徴として、各国の人々と交流ができる場でもあります。

万博で世界への関心を広げ、その国の人々の誇りやこだわりを知ってもらいたいです。その国にまつわる「好き」を見つけていくことは、憎しみを遠ざけ、対立や戦争を思いとどめる力にもなる。それが、平和な世界への一歩につながると私は信じています。

国連パビリオンをはじめ、万博をぜひ楽しんでください!



建設が進む万博会場を視察する、根本かおるさん(右)と国連パビリオンの展示責任者マーヘル・ナセルさん(2024年6月、大阪市の夢洲)

(掲載:朝日中高生新聞 2025年4月13日掲載)